

# 第34回 定時株主総会（要旨）

※本資料は、株主総会当日に投影した資料の、一部を抜粋しております。

## フィールズ株式会社 第34回定時株主総会

### 事業報告並びに 2022年3月期連結業績報告

取締役 小澤 謙一

当連結会計年度における事業報告並びに2022年3月期連結業績に関しまして、私からご説明させていただきます。

## コンテンツ&デジタル事業

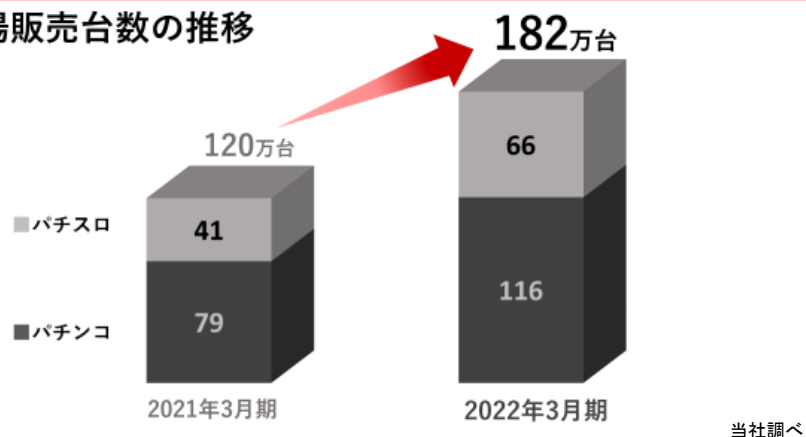
### 円谷プロダクションのMD・ライセンス収入の推移

	2021年3月期	2022年3月期
国内MD・ライセンス収入	7億円	14億円
海外MD・ライセンス収入	10億円	21億円
MD・ライセンス収入合計	17億円	35億円

コンテンツ&デジタル事業の中核企業である株式会社円谷プロダクションでは、グローバルでのウルトラマンブランドの価値の高まりを受け、国内並びに海外でのマーチャンダイジングが好調に推移しました。とくに、中国におけるマーチャンダイジングが著しく伸長し、収益に大きく貢献しました。以上の結果、国内MD・ライセンス収入は14億円、海外MD・ライセンス収入は21億円、MD・ライセンス収入の合計は前年度約2倍の35億円となりました。

## パチンコ・パチスロ事業

### 市場販売台数の推移



パチンコ・パチスロ市場では、2018年の規則改正以来の不調から脱し、ファンの期待に応える遊技機がパチンコを中心に登場し、高い評価を得たことから、当期の市場総販売台数は、前期比62万台増の182万台となりました。

## パチンコ・パチスロ事業

### PS事業の販売実績

		2021年3月期	2022年3月期
パチンコ	販売機種数	3機種	6機種
	販売台数	5万台	14万台
パチスロ	販売機種数	8機種	7機種
	販売台数	4.6万台	5.1万台
合計	販売台数 合計	9.6万台	19.1万台

当社パチンコ・パチスロ事業では、市場全体の追い風も受け、新台販売が好調に推移しました。左図の通り、パチンコは6機種14万台、パチスロは7機種5.1万台、合計販売台数は19.1万台と、前年度を9.5万台上回る結果となりました。

その他、グループ各社の業績も順調に推移しました。

## 2022年3月期 連結業績

	2021年3月期	2022年3月期	前年同期比増減
売上高	387.9億円	<b>949.0億円</b>	+561.0億円
営業利益	△22.4億円	<b>34.4億円</b>	+56.8億円
経常利益	△20.3億円	<b>36.3億円</b>	+56.6億円
当期純利益	△34.5億円	<b>24.7億円</b>	+59.2億円

以上の結果、2022年3月期連結業績は左図の通りとなりました。  
売上高949億円、営業利益34.4億円、経常利益36.3億円、  
当期純利益24.7億円となり、いずれも前年度を上回る結果となりました。

## 2023年3月期 業績見通し 中期経営計画の概要

代表取締役会長兼社長 山本英俊

2023年3月期の見通しにつきまして、本年5月に策定した中期経営計画の内容を織り交ぜながらご説明させていただきます。

## 2023年3月期 業績見通し

	2022年3月期	2023年3月期	
	実績	計画	増加額
売上高	949.0億円	980億円	+ 31.0億円
営業利益	34.4億円	40億円	+ 5.6億円
経常利益	36.3億円	40億円	+ 3.7億円
当期純利益	24.7億円	30億円	+ 5.3億円

左の図は、中期経営計画の初年度である2023年3月期の業績見通しです。売上高980億円、営業利益40億円、経常利益40億円、当期純利益30億円を計画しています。

## パチンコ・パチスロ事業

### 新市場の始まり



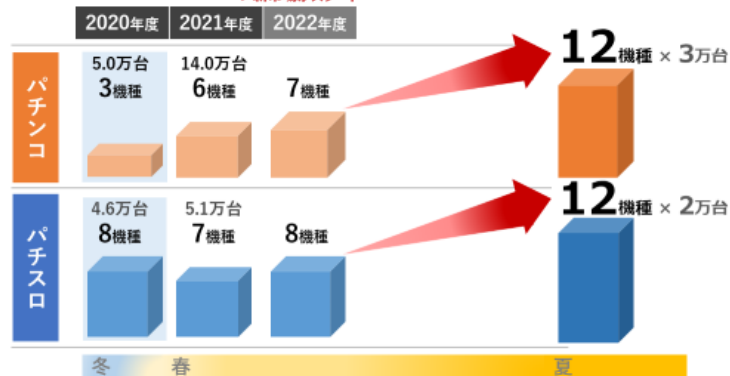
続いて、事業別のご説明です。

パチンコ・パチスロ事業において、当社を取り巻く市場環境は、2014年以降に相次いだ規制の強化により、長い冬の時代が続いていました。しかし、2018年の新規機施行を契機に新たなゲーム性を備えた遊技機の開発が可能となりました。これにより、パチンコは当社商品を含むヒット機種が続々と登場するなど、冬から春を過ぎて、既に夏を迎えています。また、パチスロについても、今後予定されている6.5号機やスマートパチスロへの期待感から、今まさに冬を過ぎて春を迎えようとしている状況です。

## パチンコ・パチスロ事業

### 販売機種数の推移

▶新市場がスタート

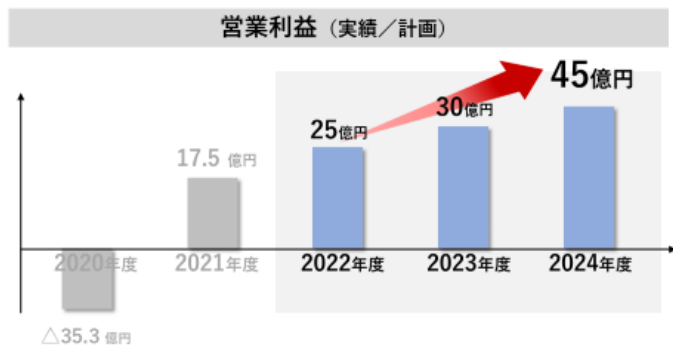


当社パチンコ・パチスロ事業の最終的な目標は、新台販売においてパチンコ・パチスロそれぞれ年間12機種を取り扱い、商品力を1機種あたりパチンコ3万台、パチスロ2万台レベルまで高めることです。

このために、当社としては提携メーカー各社との連携を一層に図るとともに、安定的な販売機種数の確保や有力IPの獲得に注力してまいります。

## パチンコ・パチスロ事業

### 営業利益計画



以上を踏まえたパチンコ・パチスロ事業の営業利益計画は、新型コロナウイルス感染症の拡大や部材調達リスク等を踏まえ、左図の通りとしています。先ほど申し上げた取り組みを通じ、2024年度には営業利益45億円の達成を目指してまいります。

## コンテンツ&デジタル事業

1

### 国内・海外市場の拡大

映画公開等によるブランド認知及びファン的大幅拡大  
中国市場が成長を牽引

2

### 北米市場の開拓と基盤構築

「ウルトラマン」をグローバル・ブランドへと戦略的に強化

3

### デジタル領域事業本格化

デジタル・フロンティアを中心に、新事業を育成

ここからは、コンテンツ&デジタル事業についてご説明させていただきます。  
国内では、引き続き『ウルトラマン』IPのブランド力を高め、ファン層の拡大を図ることで、マーチャンダイジング等に繋げてまいります。

海外では、伸長している中国市場のさらなる拡大を図るとともに、北米市場の開拓と基盤構築を本格的に進めてまいります。

そして、将来の成長分野として、デジタル・フロンティアを中心としたデジタル領域事業の育成に注力してまいります。

## コンテンツ&デジタル事業

### 北米市場の開拓と基盤構築

「ウルトラマン」をグローバル・ブランドへと戦略的に強化

ハリウッドスタジオ製作

**NETFLIX**

世界一斉配信アニメ映画

**ULTRAMAN**

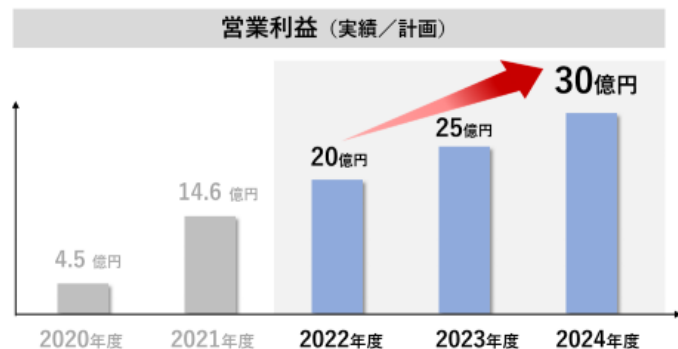
北米市場  
から世界へ

北米市場に向けた取り組みでは、既にNetflix社との共同製作によるCGアニメ映画『Ultraman』を発表しています。

本作品にあわせて北米市場におけるMD・ライセンスビジネス等の展開を活発化すべく、当社グループの総力を挙げて取り組む所存です。

## コンテンツ&デジタル事業

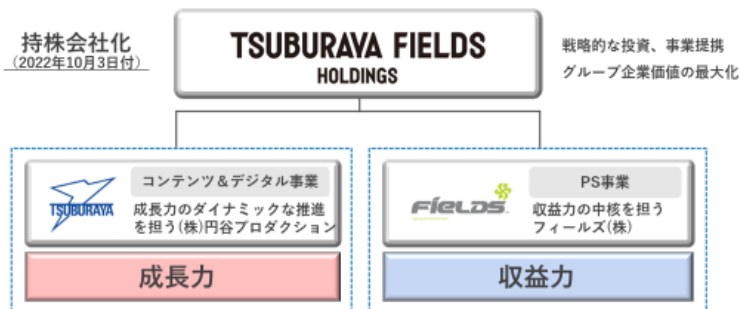
### 営業利益計画



以上を踏まえたコンテンツ&デジタル事業の営業利益計画は、左図の通りとしています。先ほど申し上げた取り組みを通じ、2024年度には営業利益30億円の達成を目指してまいります。

## 中期経営計画の実現に向けたグループ組織再編

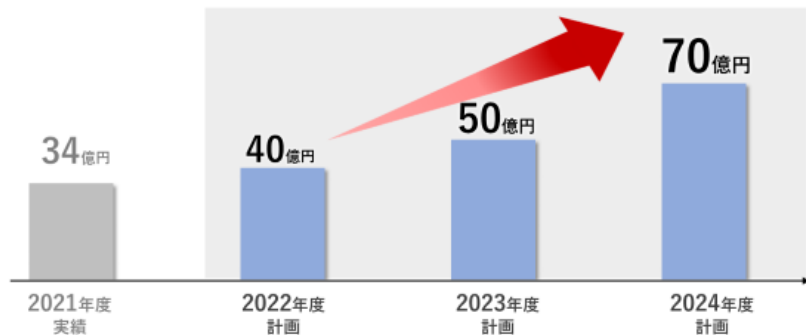
「成長力」と「収益力」を両輪とし、株主価値向上を促進



中期経営計画の実現に向けて、左図の通り、来る10月3日、持株会社「円谷フィールズホールディングス」としてグループを再編し、「成長力」と「収益力」を両輪としたグループ体制により、株主価値の向上を図ってまいります。

「成長力」を担うコンテンツ&デジタル事業では、『ウルトラマン』IPの価値を高めることで、グループのさらなる成長のけん引役としてまいります。そして、未来に向けてはデジタル・フロンティアを中心に新たな事業の育成を図ってまいります。また、「収益力」を担うPS事業では、販売機種数および販売台数の増加に向けた取り組みを推進し、収益力の拡大を図ってまいります。

## 3カ年グループ営業利益計画



(注) 連結営業利益（計画）は、パチンコ・パチスロ事業及びコンテンツ&デジタル事業の合算値からのれん償却費及びその他事業の損益を調整しています。

新たなグループ体制下における3カ年グループ営業利益計画につきましては、左図の通り、2024年度に営業利益70億円を計画しています。当社グループでは、計画以上の成績を残し、株主の皆様にご貢献できるよう、社員一同、一層に精進してまいります。皆様におかれましては、引き続きご指導ご鞭撻賜りたいと思います。ご清聴ありがとうございました。